

粉河高等学校

実施日時	令和2年 1月 30日 (木)
参加者	生徒 240名、教職員 30名、 計 270名
実施内容	消防署員による講演・心肺蘇生法講習、搬送法講習、防災地図作り・プレゼンテーション、マイトイレ作り、パーティション作成、炊き出し・配膳訓練

ねらい

- 1、日頃の備えや訓練の大切さを学ぶ。
- 2、災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

- 1、講演
- 2、心肺蘇生法講習と搬送法講習
- 3、パーティション作り
- 4、マイトイレ作り
- 5、粉河町内防災地図作り
- 6、アルファ米炊き出し・配膳訓練
- 7、振り返り

概要

- 1、那賀消防組合東消防署の方より、災害発生時についてのパワーポイントを使った講演



- 2、那賀消防組合東消防署の方々による、心肺蘇生法と搬送法の講習を、2班に分けて交互に実施



- 3、段ボールのパーティションを組み立て、その中へ実際に入り、広さや防寒性等を体感する



- 4、新聞紙を使ってマイトイレの作り方を学び、災害時のトイレの重要性を知る



- 5、各クラス6名ずつのグループで、粉河町内を巡り、災害時に危険になりそうな箇所を写真に記録し、帰校後、全員の前で発表(2～4のプログラム中)



6、各クラス 5 名ずつアルファ米を使った炊き出しを行い、クラス人数分の配膳をする(3・4のプログラム中)



7、アルファ米ご飯を試食し、本日の内容についての感想文を書く

参加者感想文

・今日、まず思ったことは、守ってもらえばかりではなく、自分が守る立場になっていかなければならないということです。幸いにも今までは自分の住んでいるところで大きな地震は来ていないですが、逆に考えると、地震の怖さを 100%知っているわけではないということです。ライフラインを普段当たり前前に使えていることがこんなにも幸せなことなのだと改めて思い知らされました。家庭であまり防災について話していなくて計画を立てられていないので、近い将来にやってくる南海トラフ地震のためにも、しっかり対策することができたらいいなと思いました。

・私は防災地図作りをしました。今日行った場所は、私の通学路でした。普段は何も思わずに歩いていたところが、改めて見て回ると危ないところだらけでした。一番危

なかったところは、アンテナが屋根から外れてぶら下がっている状態だったところでした。そこは裏道だけど、近くには学習塾があるし、小・中学生が良く通っている通りのすぐそばだったので、本当に危ないと思いました。その家の人も気づいているはずなのに直していないのはいけないことだと思いました。実際に避難するときには、できるだけ危ないところを避けて気をつけて避難したいと思いました。

成果と課題

【成果】災害時には自分たちが地域の一員として活動しなければならないという意識付けは十分にできた。また、生徒は積極的に活動し、知識や経験を積むことができた。防災地図作りを発表形式ですることで、プレゼンテーション能力も向上した。

【課題】毎年三年生が登校しなくなり、二年生が修学旅行に行く時期に一年生を対象に実施していたが、次年度は修学旅行の時期がずれるため、内容の大幅な変更を迫られる。参加学年が増え、教員数も限られるため、より効率的に実施できるようなプログラムにしなければならない。